笠原　彰先生の研究回想録 “Serendipity: Research Career of One Scientist”について

二　宮　洸　三*

気象学の分野で優れた業績を上げられた方々の総合報告，記念講演（とその抄録）に接することは，大変有益で楽しいことです．

2016年にNCAR（National Center for Atmospheric Research，アメリカ大気研究センター）の笠原先生から頂いた年賀状に「最近研究回想録をNCARのTechnical Noteとして出しました．Hard copyはありませんがPDF fileはありますので興味がおありでしたら御送りします」と書かれておりました．ご返事を出したら，すぐにPDF fileを送ってくださいました．そのPDFが

NCAR Technical Notes NCAR/TN-507＋PROC “Serendipity: Research Career of One Scientist” by Akira Kasahara です．

この97ページの研究回想録は19節から成り立ち，著者の太平洋戦争戦中・戦後の東京大学気象研究室，Texas A & M University, University of Chicago, Courant Institute of Mathematical Sciences, NCAR等での台風，数値予報モデル，大気大循環モデル，気象力学などの多彩な研究活動について年代記的に生き生きと述べられています．また，著者御自身の研究活動を取り巻いていた世界の気象学界の動向や研究交流の様子も克明に記されています．

この報告では数式は使われておりませんが，著者の論文のリストが添えられていますので，それを参照できます．また，引用文献には，気象学史上重要な文献が挙げられており気象学史を学ぶにも便利です．

私自身台風，数値予報モデル，大気大循環モデル，気象力学の知識に乏しいので，この回想録の内容を正確に理解できていませんが，これらの部門の科学史として大変興味深く，また研究の着眼点，動機や研究交流の大切さを学べるテキストとして強い印象を持ちました．また私より10歳ほど年長の先生が，過去の研究の経緯を詳細に記憶され，長文の報告を書かれたことに感銘をうけました．

すでにこの研究回想録を読まれた方も多いと思いますが，「若い世代を含んだ多くの方々にも御伝えしたい」とメールで申し上げたところ，「“故きを暖め新しきを知る”と言う諺がありますが読者の役にたつとすればこれにこしたことはありません．興味を持たれた方にこのファイルを送って頂いても結構です．あるいはhttp://dx.doi.org/10.5065/D6RX9940をクリックして頂ければこのファイルがでます．」とご返事を頂きました．

このような経緯がありましたので，本記事で，笠原彰先生の研究回想録を御紹介いたします．興味深い気象研究史ですので，ぜひ上記のhttp:// にアクセスしてお読みください．あるいはメールで連絡くだされば私からPDFファイルを転送いたします．

* Kozo NINOMIYA（無所属）．
knino@cd.wakwak.com
© 2016　日本気象学会